

海と向き合うメンバーたち



ヨットはうまく風を受けるとぐんぐんスピードを上げて走ります。この「風にあわせて乗っている」という感覚がヨットの魅力のひとつだそう。「風に乗れることが楽しいのはもちろん、それができるようになったという達成感が気持ちいい。」と井上さん。続けて木下さんも「同じ海でも、その日の海に合った走りをしなきゃいけない。うまく風を受けられているかスピードや角度などをすごく気にしている。」と教えてくれました。

そしてコース取りをするのに必要なのが、自分の判断を信じて実行に移す行動力。「セーリングは自分の考えを行動としてそのまま発揮できる。こうしよう、と思ったことをいかに実行できるかというのを大事にしている。」と松崎さん。国体では二人乗りヨットの種目に山田さんと挑戦するとのこと。コース取りの判断も二人で行うよう

になります。意見がぶつかることはないのか聞くと、二人して「すごくある!」と即答。山田さんが「意見を合わせるようにすることも練習。頑張っている。」と付け加えるとすかさず松崎さんは「合わせられなくても、舵(かじ)取りの僕が舵きっちゃうけどね!」と切り返し。メンバーは一斉に大笑いし、お茶目な一面を見せてくれました。

また、印象に残ったのは「なぞに速い!」と絶賛されていたクラブの最年長、小林さんの速さの秘密。中学2年生からセーリングを始めた小林さん。高校に入学してからはコロナ禍で大会中止が相次ぎ、思うようにレースに出られなかったといいます。そんな中でも腐ることなく、ずっと海と向き合ってきた小林さんの風を感じるセーリング感性はピカイチ。いつの間にか追い抜かれている、と言われるほど誰にもわからない速さにつながっています。

たくさんの人にセーリングの魅力を

「このクラブで培ったものもクラブ自体も、将来に残していけるようなものにしたい。」という熱い言葉もメンバーから聞けました。そういった思いからクラブ活動の中では、時間を守る・使ったものを元に戻す、自分で考えて行動するなど、当たり前だけれど守るべき社会のルールを守るよう皆で心掛けているそう。また、クラブを引き継いでいく次の世代を集めるために、クラブのインスタグラムを開設するなど広報活動も始めています。

夏のイメージがありますが、セーリングにシーズンオフはありません。マリンスポーツセンターには設備も揃っているので手ぶらで体験ができます。「たくさんの人にまずは体験だけでもしてほしい。おもてなしします!」と熱意のこもった言葉に、こちらまで胸が熱くなる思いを感じました。

セーリング市長杯が 開催されます!

11月に開催決定! 詳細は随時、市の公式ホームページでお知らせします。

ヨットクラブの
インスタグラム
ぜひ見てね!



写真左から

やまだ あおい 山田 蒼生さん、こばやし こゆき 小林 胡由希さん、まつざき そうま 松崎 颯真さん、きのした はると 木下 陽仁さん、いのうえ こうた 井上 航汰さん
(野市中3年) (高知高専3年) (野市中3年) (野市中3年) (夜須中2年)

クラブメンバーが国体に出場!



夜須町にある香南市マリンスポーツセンターを拠点に活動する香南ジュニアヨットクラブ。現在7人が所属しており、全国大会で優勝・入賞するなど優秀な成績をおさめています。そして県の代表として、メンバーの4人が10月1日(土)から開催される「いちご一会とちぎ国体」のセーリング競技への出場が決定。

海で頑張るメンバーにセーリングの魅力について伺いました!

セーリング競技ってどんなもの?

ヨットは、帆(セール)に受けた風で進む船のことで、帆を使って水の上を進むことを、「セーリング」と呼びます。

セーリング競技の順位は、かけっこと同じで誰が一番にゴールするかで決まります。中継地点と大体のコースは決まっていますが、風や波にあわせて細かなコースを決めるのは選手自身。自然環境が刻一刻と変わる中、風や波を味方につけてライバルより速くゴールすることがカギとなります。そして時にはスピードに乗るため、身を乗り出してヨットを操るなどテクニカルな一面も。

頭と体の両方を使うシンプルながらも奥の深いセーリング競技は、東京2020オリンピックでも10種目が実施され、盛り上がりを見せている競技です。

● セーリング競技のコース例

